

港湾振興便り



2024. 4

第203号

*:

目 次

*:

1 ポートエッセイ — 日本酒のお話 —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

- 国際物流シンポジウム2024を開催しました！

(近畿地方整備局 港湾空港部)

- 八戸港新フェリーターミナルビルが供用を開始しました！

(東北地方整備局 港湾空港部)

- 能登港湾空港復興推進室を設置しました

(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)

- 第11回広島みなとフェスタ開催

(中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所)

*:

1 ポートエッセイ — 日本酒のお話 —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

*:

4月、新年度が始まった。入学、就職、異動等の歓送迎会が各地、各所で開催されていることと思う。歓送迎会と言えばお酒がつきもの。お酒は、はるか昔から親しまれてきた。お酒の効用として食欲増進、ストレス緩和、人間関係をスムーズにする等があげられる。ただし適量を守ることが大切だが…。

私の住む新潟は日本酒が有名。おいしい米と綺麗な水に恵まれ、そのお米と水から作られるおいしい新潟のお酒。その新潟の日本酒のPRの場として、国内最大級の日本酒試飲イベント「にいがた酒の陣」が毎年行われている。

「にいがた酒の陣」は、新潟県酒造組合が設立50周年を記念して2004年にスタート。毎年好評を博し、かつては2日にわたり県内外から14万人が訪れたこともあるビッグイベントである。各メディアでも取り上げられその宣伝効果は絶大であった。そんな矢先、コロナ感染に水を差され休止を余儀なくされていたが、昨年4年ぶりに開催され、今年は3月9～10日に新潟市朱鷺メッセで開催された。催しは完全予約制で、実行委員会によると予約は即日で完売したという人気ぶりだ。当日は、県内約80蔵から約500種類もの銘酒が集結、訪れた人たちは専用の「おちょこ」を持って蔵元のブースを回り、好みの銘柄を味わうなど大いに賑わった。来年は皆さんも参加し、個性豊かな美味しい「新潟の酒」を相性の良い「新潟の食」とともに味わって頂きたい。

日本酒は今世界的な和食ブームなどを追い風に、ワインやウイスキーのように世界的な“SAKE”になりつつあるようだ。この機を逃すまいと新潟で行政とIT企業が連携、中小規模の酒蔵でも輸出が取り組みやすくなるよう実証事業が行われている。海外の現地バイヤーとのオンライン商談会、その後の個別商談を経て輸出が決まった酒蔵もあった。本年2月には最寄りの新潟東港からコンテナで輸送された。港の活性化にもつながる。関係者は今後の商流確立に期待する。

先般厚生労働省から「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」が公表された。過剰なアルコール摂取はさまざまな疾患の発症リスクが高まる恐れがあるという。自分に合った飲酒量を決めることが大切なようだ。健康に気を付けつつ適度に楽しむこととしよう。

*:

2 トピック

*:

●国際物流シンポジウム2024を開催しました！

(近畿地方整備局 港湾空港部)

令和6年3月11日(月)、国際物流戦略チーム(事務局:関西経済連合会、近畿地方整備局、近畿運輸局、大阪航空局)はKKRホテル大阪において、対面約160名、Web約200名の参加により「国際物流シンポジウム2024」を開催しました。

本シンポジウムは2月16日に「新しい国際コンテナ戦略港湾の進め方検討委員会」の最終とりまとめが公表されたことを踏まえ、新たな政策への理解を深めるとともに、国際コンテナ戦略港湾「阪神港」の今後の方向性を議論することを目的としたものです。

基調講演では「新しい国際コンテナ戦略港湾の進め方検討委員会」で座長を務められた早稲田大学法学学術院河野教授から東南アジア等からのトランシップ貨物の国際コンテナ戦略港湾への集貨やコンテナターミナル一体利用等の今後の進め方についてご紹介いただきました。

パネルディスカッションでは国、港湾運営会社、荷主企業それぞれの立場からコロナ禍でのコンテナ物流の混乱の影響と国際基幹航路の重要性についての意見が出され、今後の阪神港での政策実現に向け関係者全体で取り組む必要性が確認されました。



会場の様子



パネルディスカッションの様子

●八戸港新フェリーターミナルビルが供用を開始しました！

(東北地方整備局 港湾空港部)

八戸港と苫小牧港を結ぶシルバーフェリーが発着するターミナルビルは、老朽化に伴い建て替えが行われていましたが、令和6年2月3日(土)に供用を開始しました。

新ターミナルビルにはボーディングブリッジが設置され、屋外を通らずにフェリーに乗り降りが可能になるなど、利用者の利便性、快適性が向上しました。

同ビルは3階建てで、1階は青森県産木材で「南部菱刺し」や「南部裂織」をモチーフにしたデザインが取り入れられたロビーがあり、2階は待合室、レストラン、お土産を購入できる売店が配置され、3階には展望デッキが備えられています。



新ターミナルビルの外観



2月1日に行われた
オープニングセレモニーの様子



待合室の様子

●能登港湾空港復興推進室を設置しました

(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)

令和6年1月1日(月)16時10分、最大震度7を記録した令和6年能登半島地震により、石川県内の多くの港湾等においても被災しました。

国土交通省北陸地方整備局では、この地震により甚大な被害を受けた港湾や能登空港、港湾海岸について「大規模災害からの復興に関する法律」の適用による権限代行により、自治体に代わって、石川県内の7港湾(輪島港、七尾港、飯田港、小木港、宇出港、和倉港)、能登空港、2港湾海岸(飯田港海岸、和倉港海岸)の一部施設を代行して本格復旧を行うこととなりました。

これを踏まえ、令和6年2月16日、石川県七尾市に「能登港湾空港復興推進室」を設置し、能登地域の港湾空港等の復旧事業の推進に取り組んでいます。



